

## 大規模震災復興の大課題：生活と雇用の再生

濱田 学昭(関西支部長/NPO街づくり支援センター 代表)

本年 2014 年は、東日本大震災から 4 年後となり、阪神淡路大震災からは 20 年後ですが、震災復興のあり方と共に、トラフ型巨大地震発生の可能性および大規模な被災想定、対応のあり方の議論は、なお、否、一層、活発です。

世界的にも防災、減災への関心は高まっています。最近、仙台市での開催された第 3 回国連防災世界会議では、「2030 年までの防災指針になる新しい行動枠組み「仙台防災枠組」の採決を巡って紛糾したが、達成目標で大筋合意したと報じられている。合意の「新しい防災の行動枠組みの骨子」では、「2030 年までの達成目標」として、①死亡率減、②被災者数減、③経済的損失の減少、④病院や学校等重要インフラの損害減、⑤防災戦略の策定国数の大幅増、⑥国際協力の強化、⑦災害早期警戒システムや災害リスク情報へのアクセス、利用可能性の拡大、が挙げられている。また、「国や地域が優先すべき行動」として、①災害リスクの理解、②災害リスク管理のための統治と制度の強化、③強靱化に向けた防災投資、④効果的な緊急対応に向けた準備と「ビルド・バック・ベター（よりよい復興）」、が挙げられている。

わが国では、自然災害リスクが、世界的にみても非常に高いことを考える必要があります。世界 20 カ国以上で事業展開のスイス再保険会社は、「世界 616 都市圏の自然災害リスクの大きさランキング」を 2013 年 3 月に公表している。2011 年の東日本大震災などマグニチュード 9 級の地震など、数百年に 1 回の地震、津波、洪水、高潮、暴風雨で、避難など深刻な被害を受ける人口を推計し、順位づけしている。東京・横浜は暴風が 1410 万人(世界 2 位)、洪水が 890

万人(同 6 位)など気象災害の影響も甚大で、全災害の合計 5710 万人。続く 2 位マニラは 3460 万人、3 位香港・広州 3450 万人、4 位大阪・神戸 3210 万人、5 位ジャカルタ 2770 万人、6 位名古屋 2290 万人、7 位コルカタ 1790 万人、8 位上海 1670 万人、9 位ロスアンゼルス 1640 万人、10 位テヘラン 1560 万人、としている。

一方、大震災の復興では、東日本での現地の復興の遅れが様々な面で指摘されている。重要な遅れの一つとして「生活と雇用の再生」があり、「生活と雇用」を支える地域産業の復興が強く望まれています。20 年後となる阪神淡路大震災から復興においても、地場産業を創り、地域経済が活性化するには、厳しいものが残っています。

本年度の研究大会では、震災後も長引く復興実現に課題を残す「復興とは何か」を考える「復興する地域産業とは？～生活と雇用の再生を考える～」をテーマとしました。

研究報告では、まほろばプランニングの上田雅治氏の「人口減少・超人口高齢化時代における関西創生戦略」、滋賀県立大学の後藤彰俊、吉井隆、鶴飼治、3 氏の「都市近郊農村集落におけるまちづくり活動と地域環境資源とソーシャル・キャピタルの関係性」、文教大学の梅村仁、地域計画建築研修所の高田剛司、2 氏の「日本版エコノミックガーデニング手法の自治体性悪への導入に関する試行的考察」、大阪大学の吉川正展、金會洙、疋田訓之、木多道宏、4 氏の「和歌山県広川町における南海トラフ地震に対応した地域の総合的な持続計画に関する研究 経過報告」、4 報告がありました。

基調講演は、テーマ「大規模災害による地域

経済と企業の長期的な疲弊と脱却への道－阪神淡路大震災を例として－」を兵庫県立大学客員教授、元兵庫県産業労働部長の神田栄治氏に依頼しました。

神田氏の最も根本的な見解は「何事も災害による人口減、事業所減を前提にして考えなければならぬ。」ということでした。

パネルディスカッションでは「復興する地域産業とは？－生活と雇用の再生を考える－」をテーマとしました。兵庫県立大学政策科学研究所教授の加藤恵正氏にコーディネーターをお願いし、パネリストとして、基調講演の神田栄治氏、関西大学社会安全学部准教授、CFW-Japan 代表の永松伸吾氏、大阪市立大学創造都市研究科准教授の松永桂子氏、経済産業省近畿経済産業局企画課長の高瀬幸子氏、の 4 名をお願いして、議論を行った。

阪神・淡路大震災及び東日本大震災の復興のうち、地域産業の復興に関わる支援や調査研究に携わってこられた研究者、実務者の方々のご参集のもとに、活発な意見交換が行われたと考えます。

西日本においても、南海トラフ巨大地震等の大規模地震の発生が懸念され、東日本大震災の経験を教訓化し、現場の情報を共有化しながら、地域産業の復興を通じた生活と雇用の再生のあり方を検討し、被災後の「生活と雇用の再生」について適切な準備を進めておくことが重要だと思われまます。